

令和7年度
島根大学大学院医学系研究科
看護学専攻（博士前期課程）入学者選抜
（第1次募集）
試 験 問 題

専門領域問題（助産学コース）

（60分間）

注 意

- 1 問題用紙は指示があるまで開いてはいけません。
- 2 問題用紙は表紙を含めて4枚です。
- 3 問題用紙は持ち帰ってください。

- ① 以下の文章を読み、問 1 から問 3 に答えなさい。なお、①と②は同じ対象者に関する連続した状況展開としている。

37 歳の初産婦、これまで特記すべき既往歴はない。9 月 25 日は、妊娠 38 週 4 日で妊婦健診のため夫婦でかかりつけの産婦人科クリニックを受診した。夫婦は、3 年間の不妊治療の末、IVF・ET（体外受精－胚移植）で妊娠した。夫婦ともに児の誕生を心待ちにしており、立ち会い分娩を計画しているが、「初めての出産のため緊張と不安でいっぱいだ」と話した。

これまでの妊娠経過に問題はなかったが、前回の妊婦健診時の血圧が 146/90mmHg、尿蛋白（＋）であり、妊婦は自宅で安静に過ごすよう指導を受けていた。

本日の妊婦健診の血圧の実測値は 138/86mmHg、尿蛋白（±）であった。また、NST（ノンストレステスト）のため分娩監視装置を装着したところ、8 分周期で規則的な子宮収縮を認めた。内診した結果は、ビショップスコア 2 点であった。妊婦は、妊婦健診終了後にそのまま入院することが決定した。

問 1 9 月 25 日の妊婦健診来院時の妊婦に、あなたが問診（観察を含む）をすることになりました。この妊婦を看護していくために、どんな情報を収集するかを挙げ、その情報が必要な理由を記述しなさい。

問 2 この妊婦には今後どのようなリスクがあると考えなのか、予測するリスク状態（疾患名可）を挙げなさい。

問 3 入院後、あなたはどのような看護が必要だと考えますか。考えられる看護を具体的にすべて挙げ、その理由も記述しなさい。

② 以下の文章を読み、問 4 と問 5 に答えなさい。

入院当日の夜間に子宮収縮はいったん不規則となったが、翌日の 15:00 に破水した。羊水は正常であった。その翌日の朝になっても、陣痛発生しなかったため、薬物による陣痛誘発を試みることとなった。8:00 から誘発剤の投与が開始され、徐々に投与量を増やし 2 時間後に 5 分周期の陣痛となった。医師の処方指示に従い徐々に流量をあげ、指示された最大投与量まで到達したが、陣痛周期 3 分、子宮口開大 6cm の状態から進まず、その日の分娩誘発は終了した。夜間は夫が付き添い、陣痛周期は 7～8 分のままで、産婦はほとんど眠れない状態で経過した。

翌日も 8:00 から薬物による陣痛促進法が実施され、投与開始から 1 時間後には 3 分周期の陣痛となった。徐々に肛門部の圧迫感が強くなり、10:25 に内診すると子宮口は全開大となっていた。陣痛発作時に努責をかけるが、児頭は station+2 から下降せず。産婦の疲労も強いので、会陰左側切開を行ったのち吸引分娩となった。児は子宮口全開大から 1 時間 15 分後に娩出、胎盤はその 7 分後にシュルツェ式で娩出となった。

分娩第 3 期の出血量は 760g で、胎盤娩出直後の子宮収縮は臍下 2 横指であった。産婦は、児の出生をととても喜んだが、「とても疲れました…」と話しぐったりしていた。夫は、分娩経過中離れることなく産婦に付き添い、腰をさするなど献身的に世話をし、児の出生後はインファントウォーマーのそばから離れることなく、写真を撮ったり、児に触れたりしていた。

なお、分娩経過中に 140/90mmHg を超える血圧上昇は認められなかった。

問 4 この産婦の出産日とその時の妊娠週数、分娩所要時間を求めなさい。

問 5 この産婦の分娩期の看護として、どのようなことを行いますか。行う看護を 1 つ挙げ、根拠となる情報とアセスメントを記述しなさい。

③ 以下について記述しなさい。

問 6 新型コロナウイルスの感染が拡大して以降から現在までの日本における性感染症
発生の変向

問 7 出生前検査の意義とそれに係る倫理的および社会的課題